

# 県立新庄病院と地域医療の方向性について

6月定例会の予算委員会において質問の機会を得ました。その中で、新庄・最上地域の医療について質問いたしました。医療や病院については、現状に不安を感じていらっしゃる方が多いと思いますので詳しくご報告いたします。

## ■県立新庄病院の機能充実について

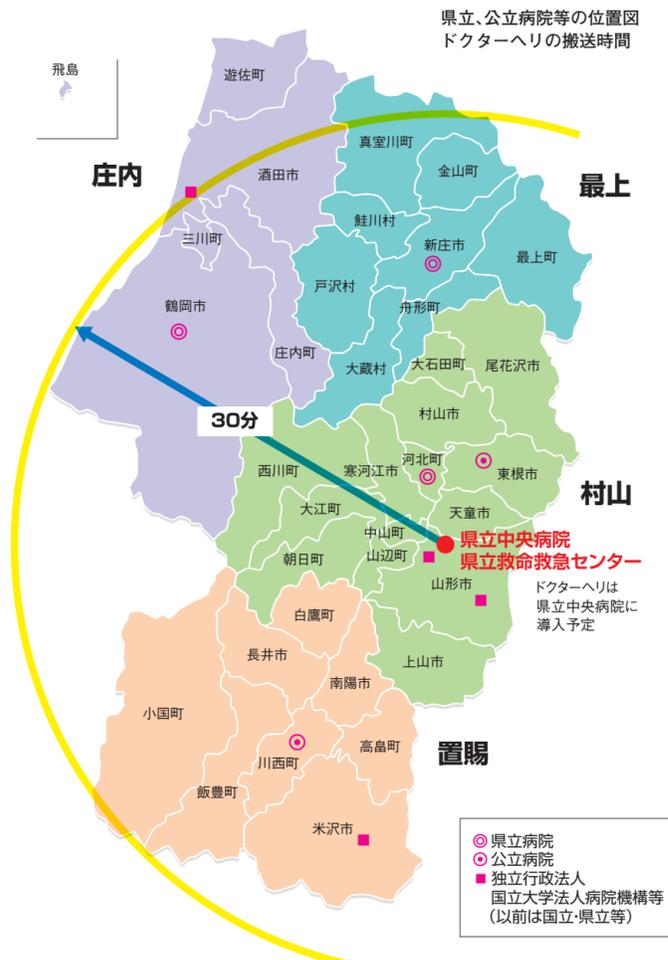
(森谷病院事業管理者)新庄病院の使命は、住民に信頼と安心を与える医療提供をして、最上地域唯一の中核病院としての役割を果たすことです。①幅広い診療科を備え、救急医療や高度専門医療を含めた総合医療を推進すること②地域の医療機関や福祉施設等との連携により地域内完結型医療の充実を図ることです。

①については、医師確保に努めています。②については、町立病院への医師派遣や放射線画像の共有システムにより最上地域唯一の中核医療機関としての役割を果たしていきたいし、必要な投資も行っていきたい。

新庄病院については、平成16年から3年間で約21億円を投資して大規模な改修をしてきた。また、医師公舎の新築もしている。人工透析病床の増床、亜急性期病棟の開設、唯一の分娩機関となったことで、産科医を1名増強した。

委員提案のとおり、医療の専門分化が進んでおり、それに対応した医師確保もがんばっていききたいし、医療機関のネットワークをしっかりと構築していきたい。全面改築については、病院事業の経営状況、県の財政への影響を踏まえながら今後検討していく。

(山科)予算がない、苦しいというのは、いつの時代も言われてきた。新庄・最上地域においては「命の格差」がある。山形で助かる命が新庄・最上地域では助からないということが現実にある。こういう点をしっかりと考慮いただき、新庄病院の全面建て替え、さらなる機能強化をお願いしたい。新庄病院の全面改築については、機会があるたびに



しつこく訴えていきたいし、私の政治スタイルにしていきたいので今後ともおつき合いをお願いします。

## ■医療体制の充実・強化について

(望月健康福祉部長・当時)ご指摘のとおり、地域医療の充実のためには、看護師の確保も極めて重要と考えている。組織改革をして、対策室を設置して医師と看護師等の確保をしていくことになった。看護学生の育成、確保、看護師になった後の再就業支援、レベルアップ対策を講じてきた。また、高校生を対象とした医師体験セミナー、看護師体験セミナーを開催する。今年度からは、看護師免許があっても働いていない方の再就業を支援していく。看護師養成機関の運営補助を継続するとともに、専門性を高めることも連携して検討していく。看護師はプロフェッショナルな職業なので、専門性を高めながら生き生きと働ける環境づくりに務めていきたい。

(山科)さまざまなプログラムの中で専門性の高い看護師さんを育てることはすばらしいことだと思う。提案だが、看護師の入り口を広げる、裾野を広げるという意味で、准看護師の資格を取れる学校を新設する、あるいは、新庄神室産業高校に看護科を作るということも今後検討していただき、新庄・最上地域の医療スタッフが少ないなかで地域医療を支えていくことが必要だと思う。准看護師の免許は、知事の認可によるものなので積極的に対応していただきたい。

## ■ドクターヘリの運用について

(望月健康福祉部長・当時)平成24年の12月からの就航に向けて準備を進めている。新庄・最上地域は、大阪府や香川県と面積がほぼ同じで、多くが山間部になっており、道路事情も悪い。ドクターヘリの場合、要請からほぼ30分以内で救急医が現場に到着して治療を開始できるメリットがある。今後、地域の救急医療機関と救命救急センターの役割分担と連携を検討していく。

(山科)ドクターヘリの導入は喜ばしいが、導入によって地域の救急医療体制がすべてカバーできるという認識があるのか。つまり、一般の地域医療とドクターヘリは、救急の場合を除いて切り離れていると、部長に明言していただきたい。

(望月健康福祉部長・当時)当然ドクターヘリがあれば全てOKということではない。各地域ごとの中核医療機関と連携し、しっかりとした救急医療体制を構築したい。



山形県立中央病院



地方独立行政法人 日本海総合病院



公立置賜総合病院

※上記3病院は救命救急センターが設置されています。

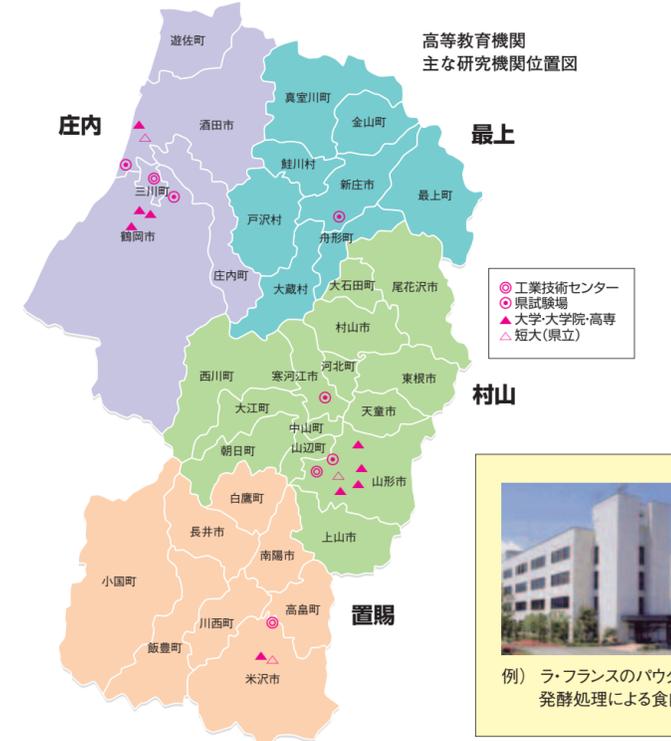
# 農商工連携と6次産業化による地域の活性化について

地域の雇用を創出するには、地域の資源を有効活用することが求められます。新庄・最上地域の基幹産業である農業、そして他産業との連携についてご報告します。

## ■県立農業大学校と産業分野との連携について

(菅野農林水産部長)農大は、これまでも学科改編やカリキュラムの見直しなどをして機能強化を図ってきた。農商工連携に関しては、農産加工経営学科を新設したり、山大大学院と連携したりしている。今後、地域に貢献する農大となるよう、教育内容を充実していく。実践的な活動を通じて県内各地でリーダーとなれる人材育成を図っていく。

(山科)我が地域における農大のありかたとなると、実践修練の場だけでなく、これからの農商工連携を踏まえるとさらに進化させる必要がある。特に、県内4地域の中で、高等教育機関がないのは新庄・最上地域だけである。農大を大学、大学院などに格上げすることで、しっかりと研究による商工業との連携を行っていききたいがどうか。



# 豪雪地帯における農業用水利施設の有効活用について

(山科)雪対策をしっかりと行い、豪雪地帯でも住みやすい環境づくりを行うことは、人口流出にも歯止めをかけることにつながる。農業予算で作ったものは、広く利用方法を模索して、農業者以外の県民も受益者となるよう活用していくべきではないか。

(菅野農林水産部長)ご指摘のとおり、住みよい環境づくりの一環として、農業用水利施設の活用は意義のあることだ。新庄市においては、さまざまな課題(水利権など)を克服しながら、消流雪を実現したという優良な事例がある。今後とも積極的に支援していきたい。農業用水利施設を活用した発電も可能性があると考えている。県内で調査を実施しているが、コストや安定供給、水利権などの課題があるため実用化にいたっていない。しかし、再生可能エネルギーへの関心が高まっているため、国の施策を注視しながら、水利施設の管理者や地域の方々とは検討する機会を作っていきたい。

(菅野農林水産部長)今後とも農大のありかたについてはしっかりと検討していく。

(山科)将来に向けて、農大をさらなる研究機関、あるいは大学、大学院のような施設にしていくことについて所見をお伺いしたい。

(菅野農林水産部長)農大は、農林分野の人材育成が目的なので、まずそれを達成できるよう必要な見直しをする。

(山科)農大の問題については今後もあるごとに訴えていきたいと思っている。高等教育機関への進化という点については、教育委員会、執行部の方々にもしっかりとやっていただきたい。

## ■食品関連産業の新たな創出について

(廣瀬商工観光部長)本県の食品製造業は、着実に伸びており、また不況の影響も受けにくい産業であるため、振興を図ることが重要である。工業技術センターや慶応大先端研、山大との連携でさまざまな技術や加工品の開発に成功している。今後も県産物を用いて商品の差別化を図っていく。また、新たな加工品の開発や栽培技術の開発にも積極的に取り組む。

企業誘致については、本県の優良な農作物や慶応大先端研、山大などとの連携、共同研究が出来る強みをピーアールして、食品関連産業の集積に努めていく。

(山科)私の求める食と農のつながりというのは、まさにそういうところにある。農大が先端研や工業技術センターのような機能と知識レベルをもったうえで、地元の研究機関があるということが、地域にとっていかに教育振興あるいは産業振興につながるかという高いレベルにまで持っていきたいと考えている。この点も含めてさらなる検討をいただきたい。

	<b>工業技術センター</b> 山形市・米沢市・三川町にあり、技術水準の向上を図ることを目的とした支援機関です。機械・電気・金属などの工業分野だけでなく、情報・食品・デザインなど多方面の研究を行っています。 例) ラ・フランスのパウダーやエッセンスの開発 発酵処理による食肉加工食品の開発	<b>慶応大学先端生命科学研究所(先端研)</b> 2001年鶴岡に設置された本格的なバイオテクノロジー研究所。基礎研究だけでなく、医療・環境・食品分野へ研究成果を応用しています。 例) 旨味成分の解析 体によい成分の発見・食品開発 また、地元高校生を特別研究生や助手として受け入れるなどの活動も行っています。
---	---	---



駒場頭首工

**新庄用水**  
新庄市他水田約3,170haの用水不足を解消するためのものです。最上川から毎秒5.90m<sup>3</sup>(最大)の取水が可能です。大蔵村の清水より取水し、市内、鳥越駒場の頭首工をへて各地へ水を送っています。H14・15年度に市内の流雪対策として試験通水を実施。H18年から本格通水(冬期)を開始しています。今後は、市街地全域の流雪対策として更なる利用を目指していきます。